

画像工学同窓会会報

<http://www.gazo-dosokai.jp/>

千葉大学工学部画像系学科 百周年記念式典・祝賀会が、
2016年10月15日に開催されました。



▲ 蒲嘉陵先生（北京印刷学院副学長）による記念講演

千葉大学工学部画像系学科創立 100 周年、おめでとうございます。

千葉大学工学部画像工学同窓会長 湯本 好英 (昭和 51 年卒)

千葉大学工学部画像系学科は 2015 年に創立 100 周年を迎えました。

この慶事にあたり記念事業を執りたいとの学科からのお話しに添うべく、微力ながら同窓会としてお力添えできたことは誠にうれしく、幹事会（百周年準備会）諸氏とともに同窓生を代表し、改めてお祝いを申し述べる次第です。

また記念事業実行のために立上げた幹事会にご参加の諸氏には、毎月の会合や様々な活動に無給のご協力を頂き誠にありがたく思います。本当にご苦勞様でした。

思うに創立のころと言えば、我が国の諸産業が欧米からの技術移転に区切りを付け独立独歩を開始した時期であり、不平等条約の改正など諸外国との関係を改善し、国として雄飛する準備が整った時期でもありました。

明治の技術教育揺籃期を経て、20 世紀初頭から始まった日本人による日本人のための教育が、社会の至る所で幅広く実践されるに及び、我が一門でも幾多の誉れ高い先輩諸氏が目を輝かせて写真と印刷の技術を学んだ姿が目浮かぶようです。

ご承知のようにそれからの日本は不幸な時期を経た後、戦後の復興を達成し世界に誇る技術大国へと変貌いたしました。今日我々が産業立国を旗印に平和に過ごせるのもこれら先人の努力の賜と改めて深く感謝したいと思います。

ところで、どの大学に於いても、それぞれの歴史の中で部門の創設、廃止、集散離合は時代の要請に応える使命を担う以上、当然のこととも

言えるでしょう。母校の千葉大学工学部画像系学科に於いても例外ではなく、過去幾多の変遷がありました。が、いつの時点を創立と捉えるかについて、かつて同窓会では下記の 3 案が示されました。

1. 東京職工学校の創立（同校は東工大のルーツと認識されている）
明治 14 年（1881 年）
※東京高等工業学校と改名後、製版を含む工業図案科を設置。
明治 33 年（1900 年）
2. 東京高等工業学校の工業図案科が東京美術学校へ移管された。
大正 3 年（1914 年）
※東京美術学校（現東京芸術大学）に写真科、製版科を創設
大正 4 年（1915 年）
3. 東京高等工芸学校（千葉大学工学部全体の源流）が創立
大正 11 年（1922 年）
※東京美術学校から写真科が同校の印刷工芸科へ移管された
昭和 2 年（1926 年）

平成 2 年、従前の画像工学科（写真系）と画像応用工学科（印刷系）が合併して画像工学科が誕生したのに合わせ、それぞれに存在した同窓会も合併し画像工学同窓会が発会した際の議論の結果、第 2 の案を採用と決定されました。下記に詳細が記されております。

<http://www.gazo-dosokai.jp/aboutus/outline.html>

ともあれ、長い歴史に彩られた我々画像を専門とする技術者集団は国内に比類ない存在です。その一万人を超える同門諸兄諸氏は、古くは銀塩写真や製版、印刷などの分野で指導的役割を果たし、近時は半導体製造装置、液晶デバイス、有機 EL デバイス、インクジェットや静電方式のプリンターなど画像に関わる分野での活躍が顕著で、これら世界市場で日本製品が優位性を発揮する代表的製品群の生みの親として、開発や製造の先頭に立っております。

今次の百周年記念事業では画像技術に関わる各企業様をはじめ多数の卒業生諸氏から、旺盛なご寄付を頂きました。この原資の使途は、まず徳久学長、関工学部長からご指針を仰ぎ、学科諸先生のご指導をいただいた結果、画像系学科が学内に占有する実験工場を改装し、最新の装置、機器を揃えた未来志向で体験型の施設に生まれ変わらせることとしました。これは次世代を担う学生諸氏の教育に大きく資するものと信じます。是非ともご活用頂き、一層のご研究、教育の成果を上げられることを希望いたします。

画像系学科の創立 100 周年、誠に
おめでとうございます。

千葉大学工学部画像系学科百周年 記念式典・記念祝賀会次第

日時 平成 28 年 10 月 15 日 (土)

第 1 部 記念式典・・・於：けやき会館 12:00 受付開始：式典 13:00～14:30
(開式まで、記念誌・画像集販売を行います。パネル展示もご覧ください。)

開式13:00

開会の辞 司会 井駒秀人 (百周年記念会副会長)

主催者挨拶 国立大学法人千葉大学 学長 徳久剛史

国立大学法人千葉大学 工学部長 関 実

ご来賓挨拶 株式会社小森コーポレーション 代表取締役会長 小森善治 様

D I C グラフィックス株式会社 取締役会長 川村喜久 様

祝電披露

イメージングラボプレゼンテーション 湯本好英 (百周年記念会会長)

目録贈呈

記念講演

「大学での画像教育：今と未来」

(Image-related Education at university level: today and tomorrow)

講演 北京印刷学院副学長 蒲 嘉陵 様

1986年千葉大学大学院工学研究科印刷工学修士課程修了

閉会の辞 国立大学法人千葉大学工学部画像科学科 学科長 久下謙一

第 2 部 記念祝賀会・・・於：フードコート2F 14:30 祝賀会受付開始：祝賀会15:00～17:00

開宴15:00

開会の辞 司会 松井尚樹 (百周年記念会幹事長)

挨拶 千葉大学工学部画像系学科百周年記念会 会長 湯本好英

ご来賓挨拶 千葉大学工学同窓会長 園田真理子 様

ご挨拶と乾杯 リョービ株式会社 相談役 浦上 浩 様

中締め挨拶 五百旗頭忠男 (百周年記念会顧問)

閉会の辞

(17:00) お帰りの際に、記念誌・画像集の引換・ご購入をお願い申し上げます。

記念誌：4,000円 画像集：10,000円



けやき会館



フードコート



記念誌・画像集 (写真はイメージです。)

千葉大学工学部 百周年記



部画像系学科 念式典



千葉大学工学部画像系学科百周年 記念式典・記念祝賀 参加者

【ご来賓】			蒲 嘉 陵 中国北京印刷学院 副学長			小 森 善 治 ㈱小森コーポレーション 会長		
川村 喜久 DICグラフィックス㈱会長			浦 上 浩 リョービ(株)相談役			園 田 眞理子 千葉大学工学同窓会長		
【ご招待】			S37 五百旗頭忠男			S40 大野 隆司		
S51 小林 孝敏			S38 中川 英文			S51 古屋 幸一郎		
和 田 美 佐 雄 EPC-JAPAN副理事長			S49 吉 田 晴 樹 ㈱金陽社常務取締役			宮 間 美 奈 子 大日本印刷(株)		
赤 坂 康 佑 コダック合同会社			長 嶺 英 生 (株)新星コーポレーション社長			藤 井 達 也 (株)リコー		
S36 岩 田 克 彦 大同印刷(株)会長			S63 岩 田 耕 平 大同印刷(株)社長			山 中 俊 雅 (株)T&K TOKA常務		
S56 難波系治郎 凸版印刷(株)			S55 谷 上 浩 司 DICグラフィックス 社長			田 昌 久 義 (一社)日本WPA 会長		
S56 佐久間信幸 (株)日進堂印刷所 社長			S63 谷 口 龍 人 日本アグフ・ゲバルト			名 取 茂 富士薬品工業(株)		
S55 高山 喜登 ヘル・グラビア・ジャパン 株式会社 社長			S55 中 村 彰 男 明文舎印刷商事(株)社長			武 内 彬 ミマキエンジニアリング		
S57 吉本 孝志 (株)ヨシモト印刷社社長			一 政 讓 リョービMHIクラフック テクノロジー 社長			リョービMHIクラフック テクノロジー ㈱		
H9 玉井奈津子 グラパックジャパン㈱						S54 大森 和志 グラパックジャパン㈱		
【大学関係】			徳 久 剛 史 千葉大学 学長			関 実 千葉大学工学部長		
久 下 謙 一 画像科学科学科長			柴 史 之			星 野 勝 義		
北 村 孝 司 久 世 宏 明 小 関 健 一			小 林 範 久 斎 藤 了 一			溝 上 陽 子		
高 橋 恭 介 高 原 茂 平 井 経 太			廣 瀬 祐 三 藤 原 祐 一 郎					
三 宅 洋 一 堀 内 隆 彦 矢 口 博 久			山 岡 亜 夫 中 村 佐 紀 子					
【一 般】			S29 竹 原 悟 タイボロジ(自営)			S32 蛭 原 貞 夫		
S33 森 貞 介 元 凸版印刷			S33 土 屋 元 彦 富士ゼロックス			S37 安 達 昭 三		
S37 橋 本 博 元 コニカ			S38 中 山 晋 プリント・フォー			S39 渡 辺 惇 フリーカメラマン		
S40 村 松 誠 サンダイヤル			S41 地 引 勝 元 富士フィルム			S42 川 口 俊 治		
S43 田 口 慎 一 中日新聞社			S43 土 屋 宜 司 日本機能材料			S44 濱 照 彦 (学)日本プリンティング		
S46 佐 々 木 孝 元 凸版印刷			S46 土 屋 俊 夫 日東保険センター			S47 鈴 木 明 元 リコー生産事業本部		
S48 斎 藤 誠 川口印刷工業株式会社			S48 清 水 博 (株)HSPテクノロジー			S48 長 田 耕 一 元 コダック		
S48 山 田 秀 夫 山田写真製版所			S49 黒瀬幸三郎 元 コダック			S49 高 山 蹊 男 伸和コントロールズ(株)		
S49 松 川 正 男 日本製紙㈱			S50 加 納 敏 夫 リコー技術本部			S51 下 川 原 厚 男 竹田印刷株式会社		
S51 高 柳 尚 義 株式会社ポスター印刷			S52 磯 田 豊 サカタインクス資材部			S52 藤 森 博 (株)ピタスタ・ジャパン		
S52 横 関 秀 俊 株式会社 金陽社			S52 國 分 敏 夫 ゼラインバイオ			S53 穴 倉 敏 文 大和サービス株式会社		
S53 橋 本 紀 年 DICグラフィックス㈱			S53 小 出 哲 司 元 日立インター			S54 唐 澤 文 男 スリーエムジャパン(株)		
S54 郡 司 秀 明 (社)日本印刷技術協会			S54 長谷川昭三 国立県営兵庫障害者職業			S54 木 村 実 株式会社 きもと		
S55 山 本 雅 夫 コニカミノルタジャパン			S55 森 貴 浩 サカタインクス株式会社			S55 木 暮 典 一 株式会社 金陽社		
S55 岸 秀 伸 パソナ株式会社			S55 黒 岩 信 司 錦明印刷株式会社			S55 蔵 本 信 行 文化放送ブレーン		
S55 齊 藤 郁 夫 理研ビタミン株式会社			S55 佐 藤 徹 グラパックジャパン㈱			S55 平 林 利 文 ㈱SCREENグラフィック&プレシ		
S56 伊 藤 哲 朗 日本食糧新聞社			S56 小 池 充 富士フィルム株式会社			S56 吉 川 武 志 (株)小森コーポレーション		
S57 平 野 利 美 富士フィルムグローバル			S57 小 川 肇 司 DIC機械㈱ 社長			S57 大 澤 郁 夫 ㈱Screenホールディングス		
S57 佐 藤 樹 セイコーインスツル(株)			S57 竹 村 和 彦 富士フィルム株式会社			S57 小 沼 雅 裕 元 コダック		
S57 北 見 公 司 大日本印刷(株)			S57 今 場 正 好 ㈱トッパンブロッサム			S58 小 川 義 夫 富士フィルム株式会社		
S58 笹 沼 信 篤 キヤノン株式会社			S58 土 田 吉 男 ソニー株式会社			S58 森 田 直 樹 ソニーPCL株式会社		
S59 印 出 明 浩 (株)小森コーポレーション			S59 中 村 哲 也 国立県営 兵庫障害者職業			S59 山 岸 雅 広 読売新聞東京本社		
S59 宮 崎 桂 一 富士フィルム株式会社			S59 大 澤 隆 一 東洋製罐株式会社			S59 中 村 威 株式会社毎日新聞社		
S59 厚 見 透 全日本空輸株式会社			S59 鈴 木 康 之 双葉電子工業株式会社			S60 根 本 浩 幸 王子製紙株式会社		
S59 長 浜 孝 信 (株)日立日キュメント			S60 長谷川隆史 キヤノン株式会社			S60 成 瀬 直 文 中日新聞社		
S61 湊 敏 彦 東芝テック株式会社			S61 安 田 庄 司 富士フィルム株式会社			S61 小 柳 敬 夫 日本化学 化学品研究所		
S62 村 田 誠 JSR株式会社			S62 中 根 喜 則 BASFジャパン株式会社			S62 根 本 浩 幸 王子製紙株式会社		
S63 内 野 則 彰 セイコーインスツル			S63 北川原淳志 富士ゼロックス株式会社			H1 柴 田 尚 紀 富士フィルム株式会社		
株式会社			H2 中 村 幹 印刷学会出版部 社長			H2 吉 田 和 哉 大日本印刷株式会社		
H1 大 原 佳 也 富士フィルム株式会社			H4 長 谷 直 樹 株式会社カネカ			H6 今 泉 大 作 シャープ株式会社		
H3 赤 嶺 寛 出光興産株式会社			H6 下 瀬 川 正 幸 株式会社			H7 藤 吉 隆 雄 北海道大学 大学院		
H6 酒 井 伸 和 群馬県立			H7 東 哲 司 オムニバス・ジャパン			H7 岩 田 修 次 株式会社ムラカミ		
H7 金 子 朗 富士写真フィルム㈱			H9 堀 田 吉 彦 株式会社リコー			H10 金 子 賢 史 ㈱ミキエンジニアリング		
H8 金 木 真 人 日本アグフ・			H10 田 中 智 行 ソニー株式会社			H11 鈴 木 智 株式会社 日立製作所		
H10 小 谷 口 博 光 ㈱DMM.com Labo			H16 川 原 健 司 第一印刷(株)			H13 湯 本 好 英 ㈱小森コーポレーション		
H16 大 倉 幸 子 オリンパス 株式会社						報道 山本香奈子 印刷タイムズ株式会社		
報道 猪俣吉春 株式会社 全国紙店報センター			報道 金澤克明 (株)印刷出版研究所			報道 根崎朋美 ニュープリンティング株式		
						会社		

記念式典風景



▲ 徳久学長による主催者挨拶



▲ 湯本会長から関工学部長へ
イメージング教育ラが整備の目録贈呈



▲ 蒲先生による記念講演

祝賀会風景



● フードコートで行われた祝賀会での風景

「イメージング教育ラボ」に期待する

同窓会幹事 郡司 秀明（昭和54年 印刷工学科卒業）



しては寄贈先にお返しして有効活用していただくように対処いたしました。また現役で使える機材（メンテナンスが大変ですが、寄贈先にご負担いただき何とか）は千葉大ゆかりの会社で第二の人生を歩めるように出来るだけ配慮した積もりです。

しかし、多くの設備はメンテナンスも再使用も難しいので、廃棄せざるを得ないという結論に達し、2016年9月14日に丸一日かけて搬出作業を行いました。下の写真は印刷実験工場2Fに長らく置かれていた製版カメラの搬出風景です（原稿架やレンズ架は午前中に取り外され、レール部分だけの状態に）。千葉大の上空にクレーンでつり出される姿を見ていると、何とも言えないセンチメンタルな想いに包まれてしまいました。

そして設備が撤去された後は幹事会ほとんど全員による掃除をすることになり、湯本会長以下、五百旗頭大先輩も含む熟年者が中心になり、かなり頑張りました。正直な話、ピフォーアフターでは驚くほどの成果が得られたと満足しております（ご苦労さん会のビールが旨かったあ）。そして10月15日の記念行事を迎えたわけですが、そこでは湯本同窓会長からイメージング教育ラボ（案）を説明しました。

千葉大学画像系学科の100周年を記念して関係方面から寄付金を集め、何か役に立つものを同窓会から大学へ寄贈することになり、色々検討した結果、印刷実験工場を改装して工場内に「イメージング教育ラボ（仮称、英語名: Imaging Education Laboratory、通称: イメラボ）」という、画像系の学生達（特に画像だけに限っていません）に対して、色彩学やカラーマネジメントについての知識やセンスを磨く場として整備することになりました。イメージング教育ラボが世界的な（特にアジアでの）画像研究の一拠点になれば、これに勝る喜びはありません。

私も学生の時には、工学を勉強するだけで良いと思っていたんですが、社会に出てビジネスという場で勝負することになると、理論や知識だけではない、単に試験問題が解けるだけではないセンスの大切さを痛感しました。（定年の歳になってから思い知るというのも世の常なのですが）

このイメージング教育ラボでは色に対する理論やセンスを、実際に実

▲ イメージング教育ラボ入口のイメージ
習・実験することが出来ます。そしてイメージング教育ラボの環境の中、学生同士が、教職員との会話で感覚を育ててもらいたいと願っています。

したがってただ設備があれば良いということではなく、その中で学ぶことでセンスが磨かれるという、デザインにも重視した環境を提供することとなりました。まだ案の段階なのですが、上図はイメージング教育ラボの入口イメージで、従来の千葉大学校舎のイメージとは異なり、おしゃれな感じになっていると思います。

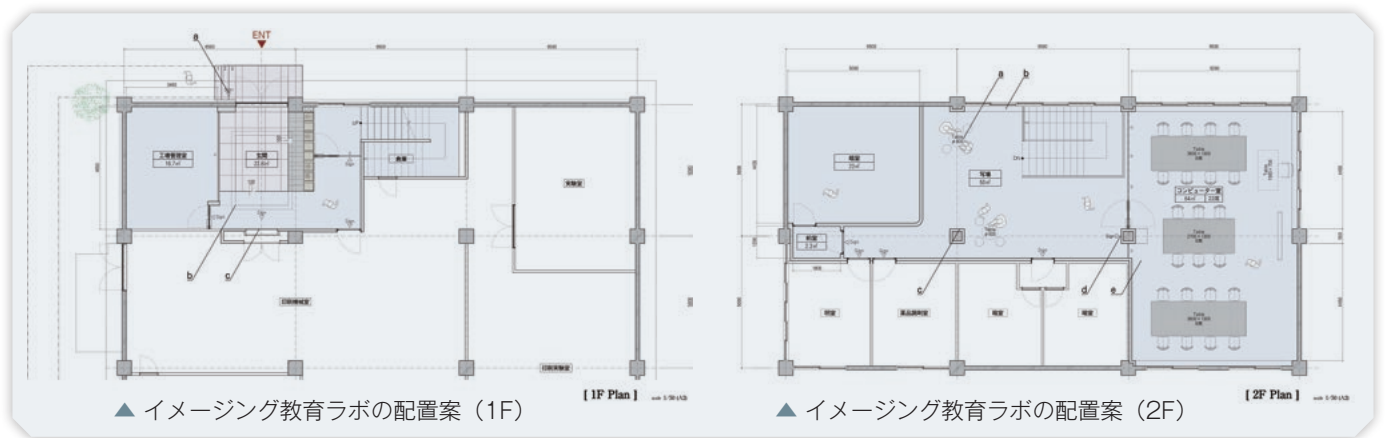
● 今までの設備の撤去と掃除

印刷実験工場も我々が実験した時代（1970年代）から使っていた設備が、そのままになっているものも多く、現在は使用していない機材も残っています。中には博物館的には価値のあるものも含まれていたため、そのような設備に関



▲ 製版カメラの搬出作業風景

▲ クレーンによる製版カメラの搬出



● イメージング教育ラボ（案）

印刷実験工場に残された印刷機はコニカ製トナー式デジタル印刷機のみになりましたが、上図のように1Fにはその印刷機と講義スペースを大きくとる案を考えています。授業を受ける環境（デザインも含めて）をキレイにすれば、学生達のやる気やセンスを磨く動機付けにもなると期待しています。

今回の寄贈設備の殆どは2Fに集約されており、一番のメインは高度光環境空間制御実験室で、多彩な実験・実習が可能になっています。具体的には色温度等自在にコントロール（LEDなので将来的な発展性も大）出来るようになっており、メタメリズム（条件等色）の体感が出来、学生達には大事な経験になると期待しております。同時に分光放射輝度計等を使用して、色覚が環境にどれだけ依存するのか？ということを実験することが可能になります。今後蛍光灯ではなく

LED照明に完全移行していったときには、メタメリズム等の問題がさらに重要視され、益々応用範囲は大きく広がると考えます。上の図面だと2F左上の実験室が高度光環境空間制御実験室ですが、先ほど触れた製版カメラが置かれていた場所にも当たります（これも何かの因果ですかねえ）。

左下図は談話スペースから見た高度光環境空間制御実験室側イメージ図ですが、この談話スペースにはiMacやPCを置いておき、実験で体験したことを話し合ったり、もっと掘り下げて調べたり、色に関係したソフト（カラーガイド等）で学生達が議論できるコミュニケーション環境を整えておく予定です。

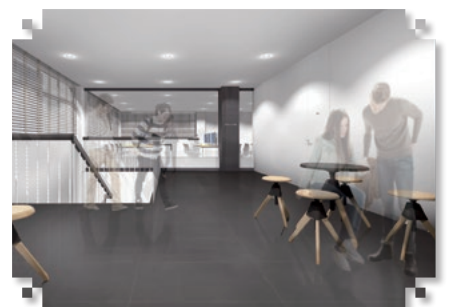
● PC環境の充実

現在の印刷実験工場のPCルームは、お世辞にも立派とは言い難い環境なので最低限のものは装備しようと思っています（右下図）。カラーマネージメントについての実験・実習が出来

るようにカラマネ用の治具も整備し、モニター（ディスプレイ）にしてもハードキャリブレーションが出来る高品質タイプ（sRGBやAdobe RGB対応）、ハードキャリブレーション無しで色域だけが大きいタイプ（Adobe RGB対応）、ごく普通のPC用モニター等、バラエティに富んだものを用意して、その違いや特性について体感や実験が出来るように考えています。お金の許す限り様々な設備を盛り込みたいのですが、五年をめどにした維持費も考慮しているので、予算ギリギリで案を練っております。この中にはハード的な維持費もありますが、ソフト的な予算も盛り込んでいます。具体的には、産業界からの招聘する講師料金も考えているのです。「千葉大ならでは？」と特筆すべき点に、多くの著名な卒業生の存在があります。そういう方々に指導していただくだけで学生達には大きな財産になると確信しております。今後この運営のために協議会的なものを作ってアイデアを出し合い、このイメージング教育ラボが画像工学や色彩工学の研究・教育の中心になることを強く願っております。



▲ 談話スペースから見た高度光環境空間制御実験室側イメージ図



▲ PCルームのイメージ図

未来への画像

千葉大学画像系学科 100 周年記念誌



千葉大学画像系学科 100 周年記念誌

千葉大学工学部にある旧写真系・印刷系の誕生から 100 年にあたり、千葉大学画像工学同窓会では、『未来への画像—千葉大学画像系学科 100 周年記念誌—』を発行いたしました。

お手元に『千葉大学工学部画像百周年記念画像集』（10,800 円）と『未来への画像—千葉大学画像系学科 100 周年記念誌—』がない方は、是非ともご購入いただきましたら幸いです。

申込み・画像工学同窓会

問合せ先 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-2-1
(株)印刷学会出版部内 電話 03-3555-7911
<http://www.gazo-dosokai.jp/>

なお、画像系学科 100 周年事業に関し、寄付金額 1 万円以上の方には、『未来への画像—千葉大学画像系学科 100 周年記念誌—』寄付金額 5 万円以上の方には、上記に加え『千葉大学工学部画像百周年記念画像集』を贈呈（無料でお送り）しております。

寄付をしたのにまだ届いていない、という方は、たいへん恐縮ですが、上記、画像工学同窓会事務局（担当:中村）まで、一報をお願いします。

目次は、次のようになっています。5 章と 6 章は、老若男女同窓生や大学教員に思い出や未来への期待を執筆していただきました。

■ ご挨拶

世界に輝く未来志向型総合大学へ

徳久 剛史（千葉大学学長）

情報工学と未来への画像

関屋 雄大（工学部情報画像学科学科長）

千葉大学工学部画像系学科創立 100 周年、おめでとうございます。

湯本 好英（画像工学同窓会会長）

■ 1 章 東京高等工芸学校前史

1. 百周年の起点
2. 製版科の前史
3. 臨時写真科の前史
4. 東京高等工芸学校の設立
5. 校名が東京工業専門学校となる

■ 2 章 国立大学として

1. 千葉大学の創設
2. 工芸学部から工学部に
3. 千葉大学工業短期大学部
4. 写真印刷工学科
5. 工学部と工業短期大学部が西千葉校舎に移転
6. 工業短期大学部から工学部特設工学課程へ
7. 大学院工学研究科に写真および印刷工学専攻設置

■ 3 章 画像工学科へ

1. 画像工学科の誕生
2. 画像工学科と特設工学科課程画像応用工学専攻との一体化
3. 画像工学科、画像応用工学科への分離
4. 大学院自然科学総合研究科（博士課程）の誕生
5. 画像工学科と画像応用工学科の再合体：新画像工学科の誕生
6. 情報画像工学科の誕生

■ 4 章 国立大学法人、そして未来へ

1. 融合科学研究科の設立と大学院の部局化
2. 情報画像工学科から画像科学科、情報画像学科へ
3. 千葉大学らしい画像を

■ 5 章 画像と大学・同窓会

■ 6 章 画像と産業

■ 寄付者一覧

千葉大学工学部画像百周年記念画像集出品作品のご紹介

佐藤 徹（昭和55年 画像工学科写真卒）



千葉大学工学部画像百周年記念画像集

本画像集には、全国の印刷会社20社から24点の作品が出品されています。画像表現方法は、オフセット印刷、グラビア印刷、フレキソ印刷、スクリーン印刷、コロタイプ印刷、インクジェット、静電トナーの各印刷方式に加え、箔、エンボス、特殊ニス、盛り上げ印刷、3Dレンズなどによる表面加工技術を用いています。支持体も、紙は勿論のこと、不織布、透明原反と様々です。

600線AMスクリーンによる写真画質リアリティーの表現、透明原反への10 μ FMスクリーンでのBCMY+ホワイト+BCMY印刷+UVニスでのワンパス印刷、AM/FMスクリーンを組み合わせた10色印刷による多彩な色表現、絵柄部に糊を印刷し、フォイルを転写し、4色印刷、更に各種ニスによる光沢表現などオフセット印刷による様々な画像表現を出品各社の技術を駆使して制作されています。

1枚の絵を3分割してインクジェット、オフセット印刷、静電トナー方式の3通りの画像表現手法で境目なく表現している作品、解説を見なければ3通りの手法で表現していることがわからない一体感があり、それぞれの手法での高いカラーマネジメント技術を確認できます。

コロタイプ印刷による作品もカラー印刷とモノクロダブルトーンの2点を出品していただき、その深みをもった独特の濃淡表現に驚かされました。私どもの年代以上の方の卒業アルバムではコロタイプ印刷による写真がメインでしたが、最近目にするものなくなったコロタイプ印刷の味わいは新しい画像表現方法として改めて見直されるかも知れません。

箔押し+ホワイト+オフセット4色+エンボス+スクリーン印刷によるニス加工という多彩な技術を駆使して金属光沢まで表現した表面加工技術、150線のスクリーン4色印刷に様々な質感

のUVワニスを使用したスクリーン印刷で盛り上げ効果を表現し、中世に作られたステンドグラスの臨場感を再現した作品、透明性の高いインキを使ってスクリーン印刷でチェンギング表現した作品などシルク印刷の独特の表現技術も一見の価値があります。

レンズを使用した3D表現の作品も5点出品されています。レンチキュラーレンズ+モーフィング技術により車とネコが入れ替わる作品、レンチキュラーレンズ+モアレによる境目なく動く独特の技術。マイクロアレイレンズにより、360度どこから見ても立体視できる作品などの最先端の技術による作品が出品されています。

どの作品も、出品各社の最先端の技術、芸術的感性を持って制作されました。

同窓の皆様も是非ご覧くださいますようお願い申し上げます。

ご購入の申込みは、同窓会事務局までお願いいたします。

同窓会からのお知らせ

画像系学科 百周年記念事業に関しまして、下記の皆様よりご寄付をいただきました。

厚くお礼申し上げます。(2016年11月4日まで)

- 【600口】 ●大日本印刷(株) ●(株)小森コーポレーション ●DIC グラフィックス(株)
- 【300口】 ●富士フィルムグループ ●SCREEN グループ
- 【200口】 ●大同印刷(株) ●凸版印刷(株) ●リョービ(株) ●リョービMHI グラフィックテクノロジー(株)
●コダック (同) ●ハイデルベルグ・ジャパン(株) ●(株)モリサワ ●(株)リコー
- 【120口】 ●グラパックスジャパン(株)
- 【100口】 ●岩田 克彦 ●中川 英文 ●大野 隆司 ●湯本 好英 ●(一社)日本WPA
●光美堂印刷(株) ●(株)日進堂印刷所 ●(株)プロネクス ●トッパン・フォームズ(株)
●(株)フジクラ ●(株)ミットヨ ●(株)T&K TOKA ●富士薬品工業(株)
●ヘル・グラビア・ジャパン(株) ●東京インキ(株) ●東洋インキ(株) ●興 和 (株)
- 【60口】 ●井下 廣
- 【52口】 ●EPC-JAPAN
- 【51口】 ●千葉大学工学部印刷工学科卒業生有志
- 【50口】 ●五百旗頭 真子 ●全日本印刷工業組合連合会
- 【40口】 ●古屋 幸一郎 ●小林 孝敏 ●表 利彦 ●長島 順三 ●前原 東二
●文教印刷(株) ●明文舎印刷商事 ●(株)浅野製版所 ●竹田印刷(株) ●(株)ヨシモト印刷社
●(株)ムラカミ ●(株)アピックス
- 【20口】 ●斎藤 誠 ●伊藤 政人 ●鳥海 渉 ●古矢泰一(CD 勉強会) ●上野 耕治
●雑賀 登志夫 ●(株)新星コーポレーション ●三美印刷(株) ●(株)金陽社 ●日本アグファ・ゲバルト(株)
●(株)ミマエンジニアリング ●(株)東京機械製作所 ●双葉電子工業(株) ●大阪印刷インキ製造(株) ●ウエノ(株)
- 【16口】 ●玉虫 幸雄
- 【10口】 ●松井 尚樹 ●岩崎 弥平次 ●笠原 健司 ●岩田 耕平 ●正田 章
●渋谷 岳人 ●松本 和雄 ●村上 博高 ●福田 七衛 ●アベ テツオ
●李 岩 ●竹原 悟 ●郡司 秀明 ●早川 忠雄 ●川上 秀夫
●小柴 満信 ●第一印刷(株) ●(有)アートスタジオ・グローブ ●高梨特許事務所 ●明和グラビア(株)
●共同印刷(株)コーポレートコミュニケーション部 ●(株)此花 ●浮田工業(株)
- 【6口】 ●斉藤 芳彦 ●高橋 恭介 ●廣瀬 祐三 ●渡辺 功典 ●斎藤 了一
●北村 孝司 ●藤森 博 ●三宅 洋一 ●平井 経太 ●濱 照彦
●久保 走一 ●平賀 祐二 ●矢口 博久 ●内田 敏夫 ●高橋 通彦
- 【5口】 ●井駒 秀人
- 【4口】 ●中村 正樹 ●中村 佐紀子 ●小出 哲司 ●宮坂 尚忠 ●石田 朗
●岡 恭一 ●安田 忠弘 ●酒井 伸和 ●橋詰 正芳 ●村 精治
●加瀬 元禮 ●(株)トライワープ
- 【2口】 ●徳江 雅宏 ●金木 真人 ●山岡 亜夫 ●木下 堯博 ●渡部 茂
●松本 哲雄 ●前野 誠一 ●手塚 景二 ●トクナガカズト ●高田 博
●柏原 克昭 ●水谷 清久 ●佐藤 樹 ●有吉 昌朗 ●秦野孝一郎
●大江 睦拓 ●佐々木 孝 ●熊倉 浩 ●堀口 泰正 ●森田 康義
●斉藤 延夫 ●クボタタケシ ●伊藤 和夫 ●田口 慎一 ●安藤 啓子
●柏倉 良而 ●山内 亮一 ●芝木 儀夫 ●日本平版機材(株) ●山本 芳正
●吉川 武志 ●村田 誠 ●小口 俊夫 ●羽賀 義典 ●佐藤 徹
●志水 誠 ●ナガハマ ●今場 正好 ●石田 浩男 ●有賀 誠
●山本 衛 ●印出 明浩 ●鮎沢 武夫 ●村越 位光 ●島 基之
●大原 佳也 ●野村 俊宏 ●山高 修一 ●下瀬川正幸 ●川原 健司
●ニシクニオ ●井田 勝久 ●岩井 龍三 ●高橋 良和 ●高宮 弘房
●山田 旬 ●鈴木 忠夫 ●貴船 和司 ●石渡 次郎 ●大澤 郁夫
●平林 利文 ●富田 俊一 ●竹村 和彦 ●北川原淳志 ●北村 陽史
●シムラヨシタカ ●田林 勲 ●吉田 和哉 ●土屋 元彦 ●阿部 敬一
●中沢 茂明 ●長尾 好倫 ●イハラサカエ ●白石 修平 ●鳥飼 照一
●日比野繁雄 ●根本 浩幸 ●大森 和志 ●小沼 雅裕 ●小川 義夫
●橋本 博 ●小川 義弘 ●滝田 進弘 ●鈴木 敦 ●安田 義司
●保谷 武夫 ●山本 雅夫 ●程谷 隆 ●高橋登志雄 ●中村 幹
●福田 至 ●加藤 武志 ●林 努 ●今井 良枝 ●土屋 宜司
●小暮 典一 ●長谷川隆史 ●池田 忠彦 ●鈴木 明 ●松浦 広
●森田 克己 ●小関 健一 ●大塚 彰 ●橋本 紀年 ●小山 元夫
●宮原 誠司 ●小川 肇司 ●西川 四良 ●有賀 利郎 ●青木 直和
●平野 隆夫 ●常世田義文 ●小池 幸子 ●半田 隆治 ●平野 長愛
●地引 勝 ●伊東 郁男 ●羽貝 泰昭 ●雄倉 保嗣 ●滝沢千太郎
●安達 昭三 ●(株)エイビス ●(株)ミヤコシ ●(株)ミヤコシ ●(株)ミヤコシ
- 【1口】 ●玉井 正義 ●小林 伸次 ●稲谷 久人 ●平田 忠

(順不同、敬称略)

厚くお礼申し上げます。



- | | | | | | | | | | |
|------------------|------------|------------------------------|------------------------------|------------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|---------|--------|
| 市彦 | 幸人敏孝 | 夫也幸 | 世男行彦 | 子郎 | 博 | 也夫 | 夫夫州好平司 | 司治男 | 一 |
| 太克伸 | 恭弘岳重木 | 実力哲信 | 浩康正信 | 議儀 | 泰 | 太淳 | 義透孝格伸 | 充進延米芳正良 | 敦哲英高昇健 |
| 嶋田井 | 瀬 | 重田谷木々本城村場 | 山松崎井田原 | 木鳥 | 辺下見崎本澤上海藤田田場并手木出田野海又 | | | | |
| 笠岩酒 | 藤 | 森宮茂鈴佐岡今中馬 | 岡小柏藤山竹 | 二白渡木厚山沼水并蛭斉原豊今藤并鈴小山天鳥川 | | | | | |
| 雄児文 | 泰 | 明男子孝史夫 | 二昭二三 | 之一人 | 男治一作 | 夫志雄樹夫子 | 哉寿彦夫 | | |
| 忠陽博 | 敏彰 | 勲節宏秀昌悟元 | 敬義景功昭峻静基修真忠厚宗誠隆大実英尚敏直敏 | 美隆淳和之晴 | | | | | |
| 川根野 | 川 | 出村林村門曾山山 | 宮井塚木達場川 | 高木越川口野淨原子橋光田田田 | 森 | 上島川本藤 | | | |
| 早湯沼 | 宇 | 小中田吉小上富草小 | 高貫手青安的黑島山金堀下樋前原菅金高末山岡池丸村中吉山伊 | | | | | | |
| 正郎彦 | 史 | 夫人夫彦 | 範裕 | 二夫 | 三ヤ久彦裕雄博克宏一男慧平樹二之之治之 | 雄 | 治一 | | |
| 芳太幸 | 将 | 仁郁久敏儀元誠元光雅 | 衛幸規清昭少知通惠孝昭良昌賢踐領耕秀清浩叙裕信寛志進隆健 | | | | | | |
| 雄 | 川 | 野澤谷田木屋田松藤沼 | 本本田榮達田村橋山并島山田沢山宮田村原本浦光田澤橋木田又 | | | | | | |
| 山本原 | 川 | 大大穠内芝土次小齊小 | 山楠中設安池田高小松中丸春寺高新岩島栗杉三末山小高鈴半川 | | | | | | |
| 山中梅 | 皆 | | | | | | | | |
| 雄一 | 二德 | 夫一一雄男平子雄一 | 飛保也郎夫男和彦宏夫彦光博 | 雄夫 | 樹也三 | 男司 | 摺 | | |
| 幸晃 | 章誠祐俊 | 明明純収和郁順 | 宏 | 透勇辰芳邦 | 正 | 植良雅磨竹位康満幹貞豊昌司修隆文宜勉 | 博彰 | | |
| 野村田藤賀田 | 川本立口野東内 | 保荒井 | 田井塚 | 藤 | 薄 | 沢 | 井野江土時越辺田并原田堀原脇本川屋腰我森沢 | | |
| 小竹正斎平太 | 柳山足山佐伊辻久松今 | | 小油手磯安西海 | 浅 | 今 | 徳林清村渡遠今蛇篠川蛇宮山緑土宮曾藤米 | | | |
| 康治一志 | 夫郎樹行一郎 | 彦治 | 一久君夫三 | 嗣昭之雄弘三 | 伸一彦高 | 典男保淳敬一夫 | 男司長 | 志 | |
| 富宗恵直英一正敏了 | 次齊席禎巖走雅東和祐 | 保克孝重義龍三 | 匡秀耕勝博勝功浩幸 | 通慎秀威功豊光幸李 | 明博 | | | | |
| 健 | | | | | | | | | |
| 田谷田場木賀村田藤渡葉賀田山保森 | 松瀬 | 倉原齊村室井谷口 | 谷原上引辺田辺多中口田村野澤川野波田槻 | | | | | | |
| 峰永町馬鈴古中太斎 | 石秋有勝平久大金平広 | 雄柏安木山岩廻川岸熊菅村地渡石渡喜野田山中河生荒河仙定大 | | | | | | | |
| 勝 | | | | | | | | | |
| 村 | | | | | | | | | |

幹事から一言 ～百周年記念事業を終えるにあたって～

(平井經太)

関西支部総会・懇親会

レストラン・キエフ (京都)

2016年7月16日

本年も関西支部の総会・懇親会が、祇園祭の宵山で賑わう中、7月16日に京都のレストラン・キエフで開催されました。関西支部のメンバーに加えて、東京・名古屋から湯本会長をはじめとする同窓会幹事の面々、千葉大からも久下教授が参加し、大いに盛り上がりました。



卒業 50 周年の同級会

花衣の館 日光・千姫物語

2016年9月15・16日



■ 三宅 洋一

(昭和 41 年卒)

写真工学科 14 回卒業 (1966 年 3 月卒) の、卒業 50 周年の同級会を 9 月 15 日・16 日、日光で行いました。40 人の卒業生 (6 人は鬼籍に入りました) のうち 25 人 (うち 1 人は 15 回卒) が日光に集まりました。

後期高齢者になった同級生も数名おりました。第一線の仕事を退いた者が大部分でしたが、ボランティアや趣味、孫の世話、大学時代の不勉強さなど話題は尽きず楽しい会でした。

恒例の凡展

交通会館 (有楽町)

2016年9月25日～10月1日

■ 山田 義彦 (文責と写真)

(昭和 35 年卒)

有楽町の交通会館で開かれる秋の凡展 (工学部の同窓・同好会) に、昭和 35 年卒の同期 4 人が「鉄ちゃんの写真」「自作の三輪車」「野鳥の写真」「画像処理写真」を出品しました。ジャンルの違う写真の観覧に写真・印刷の級友が集まり、銀座インズで昼食・歓談し旧交を温めました。



皆、傘寿前後になり写真 15 人・印刷 14 人が現存者で、体調不良などで少しずつ参加者が減るのが残念ですが、遠くは USA から一時帰国してくる元気者もいて今年は 17 名が顔を揃えました。



津村節子さん、文化功労者に

■ 廣瀬 祐三

(昭和 43 年卒)

女流作家としてご活躍中の津村節子さん（本名 吉村節子）が、作家としての功績を認められ、今般の叙勲で文化功労者に選ばれました。

津村さんは、東京高等専門学校に併設された文部省科学研究補助技術

員養成所（写真）で6ヶ月間学ばれ、昭和 19 年 9 月に第一回生として卒業されました。

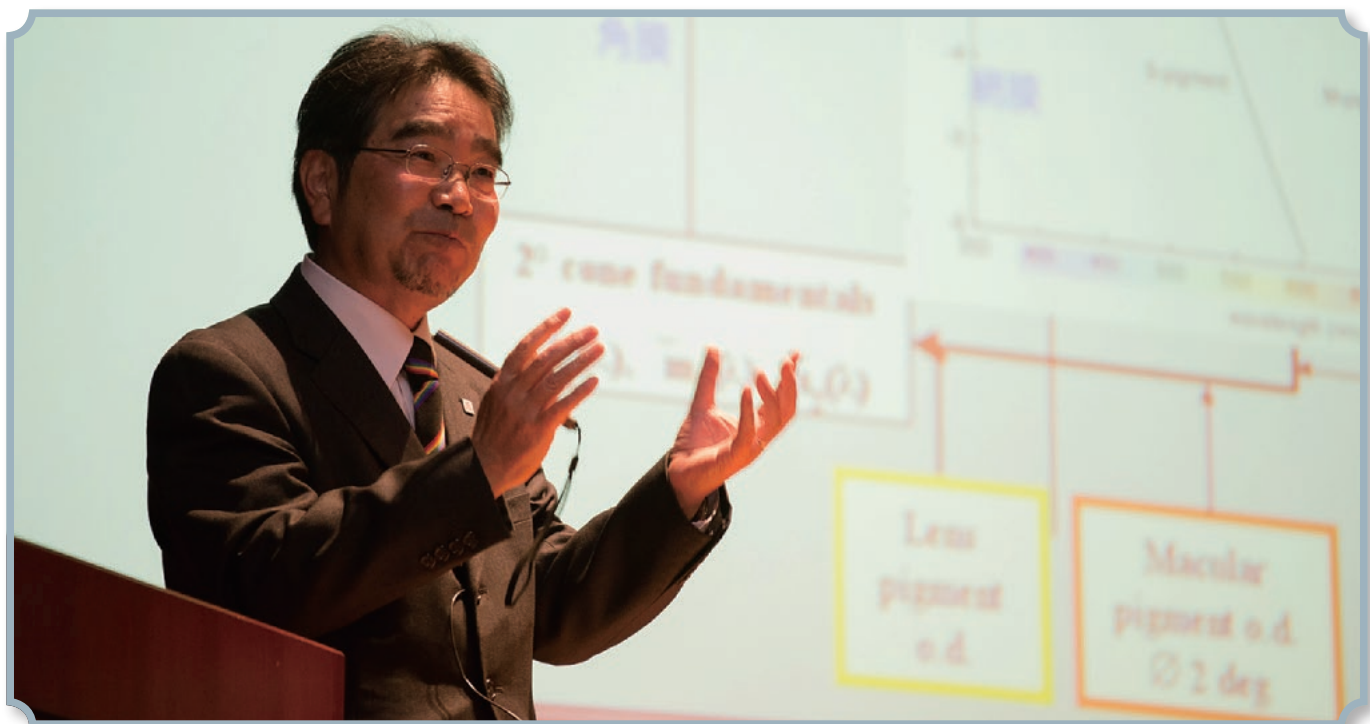
自伝的小説や歴史小説、紀行・エッセイと幅広く才筆をふるわれ、1965 年に芥川賞を受賞されたのを始めとして、女流文学賞、芸術選奨文部大臣賞、川端康成文学賞、菊池寛賞等、

多数の賞を受賞されています。

2003 年には「長年にわたる作家としての業績」で恩賜賞・日本芸術院賞を受けられ、日本芸術院会員にもなられています。

今後も更なるご活躍とご健勝を、お祈りいたします。

矢口博久教授最終講義



■ 溝上 陽子

(情報画像学科准教授)

情報画像学科の矢口博久教授の最終講義は、2016 年 3 月 7 日にけやき会館大ホールで開催され、学内外から約 180 名の参加者がありました。講義タイトルは「光・眼・色」という、まさに矢口先生のご研究を端的に表すものでした。講義では、千葉大工学部写真工学科時代のエピソードから、光計測に関する卒論・

修論、東工大大学院時代の比視感度における明るさの加法性に関する研究、カナダ国立研究院研究所時代の等色関数の研究、そして千葉大学での色彩工学、視覚・色覚のメカニズムの研究について幅広くお話いただきました。最後は、現在のご研究とこれからの課題についてのお話で締めくくられ、更なるご研究の発展に期待が膨らむ内容でした。

懇親会も 100 名以上の様々な年代

の方々が集い、大変盛況でした。先生の学生時代から今日までの写真も矢口先生のコメントを交えながら紹介され、懐かしく先生との思い出を振り返ることができました。

矢口先生は千葉大学名誉教授として、研究や国際照明委員会での活動を継続されています。30 年の長きにわたる千葉大学でのご功労に敬意を表すとともに、今後ますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。

同 窓 会 か ら の お 知 ら せ

■ 2016 年度 (2016 年 1 月 1 日～12 月 31 日) 事業報告

1. 2 月 4 日 (木)

第 16 回技術講演会 (池袋サンシャインシティ文化会館)
「富士フィルムにおける新規事業推進」
戸田雄三・富士フィルム株式会社 取締役専務執行役員 (当時)
(昭和 46 年卒・48 年修了)
「カラーマネジメントのネクストステップ」平井経太助教
(千葉大学大学院 融合科学研究科)

2. 3 月 23 日 (水)

画像科学科 卒業生を励ます会 (けやき会館コルザ、協賛)

3. 7 月 16 日 (土)

関西支部総会・懇親会 (京都・キエフ)

4. 10 月 15 日 (土)

画像系学科 100 周年記念式典・懇親会
(けやき会館、フードコート)

5. 12 月下旬

会報 19 号発行

6. 幹事会 (主に 100 周年関係)

1 月 24 日・2 月 4 日・3 月 13 日・4 月 16 日・5 月 15 日・
6 月 26 日・7 月 23 日・8 月 27 日・9 月 25 日・10 月 30 日

▶ 同窓生の寄付により、引き続き『印刷雑誌』へ同窓会情報
発信の掲載を継続

■ 2017 年度 (2017 年 1 月 1 日～12 月 31 日) 事業計画 (案)

1. 2 月 9 日 (木)

技術講演会、総会、懇親会

2. 3 月

画像科学科 卒業生を励ます会 (協賛)

3. 7 月

関西支部総会・懇親会

4. 9 月

同窓生と学生による画像関連工場・研究所見学会、懇親会

5. 12 月下旬

会報 20 号発行

▶ 同窓生の寄付により、引き続き『印刷雑誌』へ同窓会情報
発信の掲載を継続

年会費納入のお願い。m(..)m

会報発行などの同窓会の活動運営は、主に会員の皆様からの
年会費でまかなわれております。正会員の皆様には、同
封の振込用紙にて年会費 (1,000 円) をご納入下さいます
よう、お願い申し上げます。尚、情報画像工学科の卒業生
の皆様には、在学時の所属コース、研究室にかかわらず、
全員にお送りいたしておりますので、ご了承ください。

千葉大学画像工学同窓会 事務局
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-2-1 (株)印刷学会出版部 内
電話 03-3555-7911 Fax.03-3555-7913

画像工学同窓会 総会・懇親会・技術講演会のお知らせ

平成 28 年度の定時総会、技術講演会および懇親会を例
年同様、開催いたします。多くの方に参加いただけるよう、
page2017 展の開催と合わせました。ぜひ、みな様お誘い

合わせのうえ、ご出席くださいますよう、ご案内申し上げ
ます。なお、総会、懇親会ともに、ご参加の有無を同封の
振込用紙にご記入のうえ、ご送付ください。

日にち：2017 年 2 月 9 日 (木) 場所：池袋サンシャインシティ文化会館 7 階会議室

■ 画像工学同窓会 第 17 回技術講演会
(公開行事)

時 間：14：00～16：30 (予定)

演 題：14：00～15：00

「欧州での印刷ネット通販の勢い」

● 五百旗頭忠男様

(千葉大学工学部写真印刷工学科 昭和 37 年卒)

15：15～16：15

「新しく展開する原子核乾板活用の世界」

● 久下謙一教授

(千葉大学工学部画像科学学科科長)

参加費：無料

■ 平成 28 年度 定期総会

時 間：16：30～17：00 (予定)

議 題：○平成 28 年度事業報告、

会計報告

○平成 29 年度事業計画、

予算案

○役員改選

■ 懇 親 会

時 間：17：30～19：00 (予定)

場 所：未 定

(詳細は、下記、画像工学同窓会専
用 Web サイトをご参照ください)

参加費：5000 円 (予定)

当日お支払いください

※最新情報は、画像工学同窓会 Web サイトをご参照ください。

<http://www.gazo-dosokai.jp/>

● サンシャインシティコンベンションセンター TOKYO

〒170-8630 東京都豊島区東池袋三丁目 1 番 1 号 交通：池袋駅東口から徒歩 8 分 東池袋駅 (地下鉄有楽町線) 2 番出口から徒歩 3 分
http://www.sunshinecity.co.jp/information/access_train.html